

小泉大臣御発言（国会質疑）

【米の価格について】

■ 6月10日（火）（参）農水委員会 ／（維）松野明美君

（松野君）（前略）やっぱりこの備蓄米というのも本当に喜んでいらっしゃいます。そういう中で、限りがあります。そんな中で、緊急輸入も選択の中にありますよということを大臣がおっしゃいました。私は、輸入は駄目ですという立場ではありません。ただ、あれっと思ったんですよ。というのは、ちょっと前に、一週間か二週間ぐらい前ですね、緊急に、備蓄米、随意契約で、スピード重視で備蓄米を出すというのは、大臣がおっしゃった、店の棚に外国産米を並べないようにしたいということをおっしゃったにもかかわらず、こういう緊急輸入を検討するというか、そういうことをおっしゃいました。（中略）この辺りのことというのはどのようにお考えなのか、ちょっとお聞かせいただけましたらうれしいですけれども。

（大臣）（前略）一方で、この輸入はけしからぬというふうの一部の方から御指摘があるのも、それは受け止めますが、仮に日本のお米は日本人にとって特別だから、絶対に駄目だということであれば、価格高騰をそのまま放置をして、そして、どれだけ高くてもいいから買ってもらえるのかといたら、私はそういうことでもないと思います。現実問題、日本の農林水産業の基盤の中で、できる限りの自給率を高めなければいけないということがある一方で、蓋を開けてみれば、和牛と言われるものであっても、餌は海外のものを使っています。この自給力をどうやって高めるかという観点を抜きに、私は、それこそ感情論だけでは済まない、そういった局面であると思いますので、いずれにしてもあらゆる選択肢は検討しながら、この価格高騰は何としても抑えと。そのことが、結果として松野先生が御心配をされている、生産者の皆さんの棚に外国産米が当たり前に並ぶ、そして消費者の米離れが進みかねない、こういったものをやはり食い止めるという効果を私は考えながら取り組んでいきたいと思います。

【土地改良について】

■ 6月10日（火）（参）農水委員会／（立）田名部匡代君

（田名部君）6月6日の会見において大臣は戸別所得補償制度について述べているが、「当時の民主党議員は戸別所得補償制度という言葉は今使っておらず、それぞれ反省していると思う。大規模化、集約化などの農業構造転換にとってプラスになる取組の歩みを止めてしまった」という発言について、根拠はあるのか。

（大臣）（前略）戸別所得補償制度が掲げられた時、私は野党議員であったが、土地改良予算をバツサリ切られた。これから必要なのは、いか

に基盤整備をして、人手が不足する中でも効率よく働ける生産基盤を作らなければならないということ。そのときに、果たして戸別所得補償制度を続け、土地改良予算を切ったことが正しかったのか。当時民主党議員だった議員も、あのまま戸別所得補償制度を続けると考えなかったからこそ、今のネーミングも含めてあるのではないかというのが、私の所感である。（後略）

■ 6月10日（火）（参）農水委員会／（国）舟山康江君

（舟山君）（前略）民主党政権時の戸別所得補償制度について、大臣会見において「規模拡大とか集約化とか農業の構造転換に向けてプラスになったか」というと、むしろその歩みを止めてしまった。」と断言されていたが、この根拠を教えてほしい。

（大臣）やはり、土地改良相当削りましたよね。こういった基盤整備をしっかりとやらなければ、次の新たな時代でより少人数の中での生産性の高い農業はなかなかできないという思いがある。立憲民主党の「食料確保農地維持支払制度」について、（国民民主党の舟山委員に言うのもどうかと思うが）総額約1兆2千億円、農水省全体予算の半分以上を充てるということは、よく議論が必要だと考えている。